

平成26年度 第二回 今宮高校学校協議会の記録

実施日時 平成26年11月19日(水) 16時00分～17時

出席者 芦屋大学 教授 吉村 和彦
自 疆 会 会長 藤岡 靖夫
P T A 会長 安東 仁美
戎橋筋商店街振興組合事務局長 山本 英夫
大阪府立今宮高校 校長 境田 優二
大阪府立今宮高校 教頭 曾根原 康樹 (学校協議会事務局長)
大阪府立今宮高校 事務長 永田 文孝
大阪府立今宮高校 首席 田中 清隆 (記録)
大阪府立今宮高校 首席 藤井 秀雄

欠 席 大阪市立木津中学校 校長 楠井 誠二
後援会会長 川上 巖生

教頭：本会の司会をさせていただきます教頭の曾根原です。第1回の学校協議会を始めたいと思います。

1 校長挨拶

2 事務局からの報告

① 保護者からの意見について

教頭：今回はありませんでした。

② 第1回授業アンケートの集計結果について

教頭：昨年度と比較すると大きくは変わっていない。学年度別にみると、学年が上がるほど、評価は良くなっている。この理由として学年が上がるにしたがって、自分の進路、興味関心による選択科目が増えることや直接進路に関わるの授業も増えるので、受講する側のモチベーションが高くなっていることにもよると思われる。

③ 本年度学校経営計画の進捗状況について

校長：今年度の重点目標について、配付資料に記入している進捗状況と改善に向けた取組の概要を説明したい。

今年度、ビジョン21を中心に、若手教員の意見も入れ、本校の意思を統一すべく活動している。また、現在、3年間の生徒育成プログラムを作成中である。全体像は年度内に完成し、ブラッシュアップしていきたい。次に教科毎に議論し授業研究を行い、学

習スタンダードを見える形に作成し、共有していきたい。生徒達の高い志の達成のために、今宮高校の教育活動を総合学科のシステムを活用し、統一的に取り組んで行くことを検討している。

今年度、生徒達の発表する場として、例年、2月に校内の多目的ホール行っている1年生の英語暗証大会、2年生の英語スピーチコンテストを、中之島の大阪市中央公会堂で実施したいと計画している。場の持つ強みを活用し、各クラス代表2名ぐらいの参加によって行いたい。PTAの参観もふくめて検討して行きたい。

本校はアメリカに2校、オーストラリアに1校の姉妹校と交流校を持っているが、現在、平成27年3月実施のアメリカ研修の募集中です。

先日、昨年度に申請していた、ユネスコスクールへの加盟が承認されたとユネスコ本部、および文部科学省から連絡があった。本年度4月の段階で、世界で9566校、日本国内では高校で102校の加盟がある。11月8日に岡山で開催された国際大会「ユネスコスクール世界大会 ー第6回ユネスコスクール全国大会ー」に教員を派遣しており、海外の高校等との交流等をふくめてユネスコスクールの活動に取り組んで行きたい。

学習時間について、現在、45分7時間の授業を行っている。必要な授業時間確保のために、週35時間の中の2時間を月曜日の6、7限に補充のための授業を行っている。週毎に科目が変わる変則的な授業形態である。文部科学省の通達で土曜日の授業が可能になり、この夏に大阪府教育委員会のガイドラインが示されたので、この課題の解消のために土曜日の活用を考えている。

土曜日に定期テスト等を実施することで、この変則的な状況を解消したいと考えている。教員の負担が増えるが先生方の協力を得て余裕のできた2時間を部活の練習時間も確保しながら、生徒達の進路保障にどう使うかは、後で報告したい。

授業支援のために今年度、プロジェクター12台を1、2年の教室に、3台を3年の教室に導入した。また、iPADを16台導入した。無線で教材を、黒板に投影することができるもので、授業の効率アップも目指すものである。来年以降は残りのクラス、展開教室にもプロジェクターを配置し、iPADも全教員の手に渡るようにしたい。

支援を必要とする生徒へ対応として、これまで通り、支援コーディネーターを中心に、教員間で緊密な連携とり、教育委員会、医療機関等とも連携をとりチームを作って対応している。

遅刻は年々減少しているが、まだ改善の余地がある。

学校ホームページに関して、本年度の毎日のアクセス数の目標は720回であるが、平均して500回前後ぐらいである。オープンスクール等では、1000回を超えることもある。昨年より、若干増えているが大きな飛躍はない。

教養講座は教員が熱心に取り組んでおり、多くの方に来て頂いている。

創立110周年の式典については、再来年の平成28年11月12日（土）に式典を本校体育館で実施し、祝賀会はロイヤルホテルで実施の予定である。

再来年度の入試は大きく変わる。対応していかなければならない。今宮を含めほとんどの高校は後期の一般入試1本になり、前期はほとんど無くなる。

新しい入試ではアドミッションポリシーに基づきボーダーゾーンの選抜を行う。総合学科のボーダーゾーンでの合格者は現行の20%であるが、新しい入試では10%になり、受験生は当該校が事前に公開したアドミッションポリシーを見て、出願時に自己申告書を提出し、ボーダーゾーンになった場合、このポリシーに内容が合っているかによって選抜するものである。来年のアドミッションポリシーの提示に向けて検討していかなければならない。

本校の求める生徒像の基本は、「磨け知性、輝け個性」であるが、中学生の皆さんに具体的に伝えて行きたいと考えている。

授業の充実に関して、プロジェクターとともに授業の最初に、本日の授業のポイントやエッセンスを提示すようにしてはどうかと考えている。

来年度、土曜日の活用によってできた余裕の2時間（コマ）について、授業の更なる充実や、生徒達の学習への動機づけに使いたい。クラブ活動の生徒にも講習に参加できるようにし、宿題量の適正化や、学習の時間確保などにも留意したい。進路保障に関して英語の充実を考えている、2コマ中1コマは、2年生は英語の単位を増やし、もう1コマは「自彊タイム」「今宮タイム」（仮題）などとして、1年は英検中心、2年は講習、3年は講習や自習等に使うように検討している。

最後に英検の受験生を支援し2年生に英検の受験を促すよう、経済的な支援もお願いしたい。また校内組織については、来年度、学習指導部を新設し、学校全体とした学習指導に当たりたい。

④その他

教頭 教科書の選定一覧です。

3 協議

委員長：今回は6月に学校協議会を行った。今回、来年度から、2コマ、学習面での支援、学習指導部を新設して組織的な支援を考えておられる。検討すべき項目は多岐に渡るが、学校が求める本日の重点はありますか。

校長：本校は創立108年の伝統校で進学を目指す総合学科として、勉強もクラブも頑張るといふ本校の特色をどう表現したらよいか。今宮高校はどのような生徒を求めて行くか（アドミッションポリシー）についてご意見をいただきたい。

2016年度入試はアドミッションポリシー提示のもとで行われる。前期、後期入試が一本化されると学校選択の際に学校の特色が更に勘案されると思われる。

委員長：小中学校の学校選択制は行き詰っている。文科省の発表によれば全国の小中学校の8割は選択制を止めるという。各小中校の特色を打ち出しても、ニーズに合わない現状がある。近くて、きれいな学校、新築校に人気がある。続けて実施しようということとはほとんどないような状況である。

この小中学校の学校選択は以上のような状況であるが、高校選択でのアドミッションポリシーをどのように中学生の心に届けるかについて意見、アイデアをいただきたい。

教頭 教員は入学した生徒には、意欲的に学校生活について送って、勉強して欲しいと思っている。入学した学校に誇りをもって卒業して欲しいと思っている。

校長：多様性があり、勉学に励み、伸び代がある生徒に入って欲しい。

委員：総合学科の特色を打ち出し、全員で確認し、この機会をチャンスと捉え、バージョンアップしたものにすべきである。

委員：今宮高校は多方面に多くの人材を輩出している学校である。自由で魅力ある今宮をアピールし、社会に貢献したいと思いフェアトレードなど社会の要請に動く価値観を持った生徒、ルールを守る自由人に入ってもらいたいと思う。

委員：面白い個性を持ち、クラス行事に積極的に関わる生徒が今宮には多い。

委員：私は高橋和巳、秋田実氏に直接指導を受けた。お二人は素晴らしい教育家でもあった。このような先輩を生かし、昔の今宮の伝統が現在の総合学科に引き継がれ、そのリベラルの校風をアドミッションポリシーで伝えることだと思う。

委員長：予定の時間を10分オーバーいたしました。終了としたい。

教頭：次回、第三回の学校協議会は、2月7日（土）10時から実施したい。12月実施の授業アンケート、学校教育自己診断に結果も報告したい。